

# 連珠っておもしろい

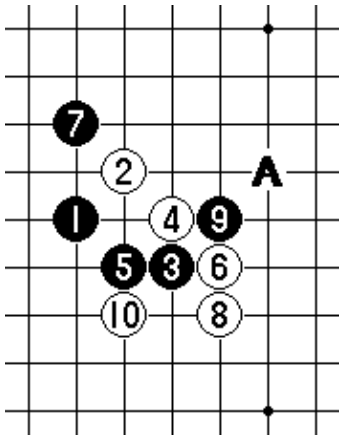
## 九段 河村典彦

### ●第27回● 一路の違いが大違い

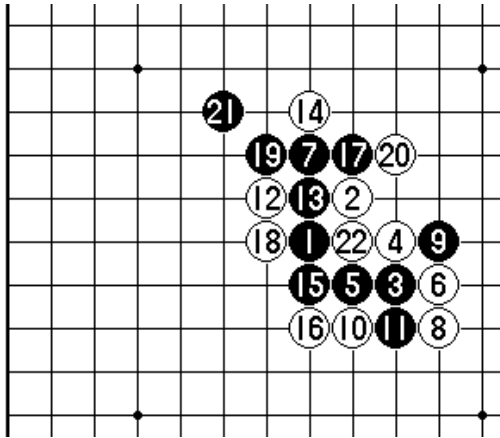
今回は盤端の違いによる作戦の違いを見てみよう。盤端の違いというのとはなかなかに理解できず苦手の人が多いと思うが、一度理解すると連珠の真髄に触れたような気がする。(あくまで気分だが)

今年になって中村元名人からちよつとした作戦が発信され、少し流行した作戦が、水月の変化である。早速見てみよう。

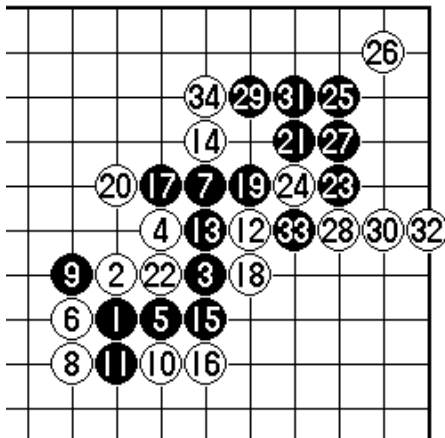
水月白4の手には、黒5



が慣手(第2の着手)である。白6と引くのがいやらしい防ぎで、黒7に白8と牽制するのが特有の防ぎである。初めてこういうのをかけられたら、まず負けるであろう。先人の知恵というのは素晴らしく、一旦黒9と落ち着くのがいい手である。とここまででは小手調べで、ここで白10が新しい作戦。斎藤本にはAの記述はあるが、この10はない。さて、ここからどう打ち進めれば良いのだろうか?

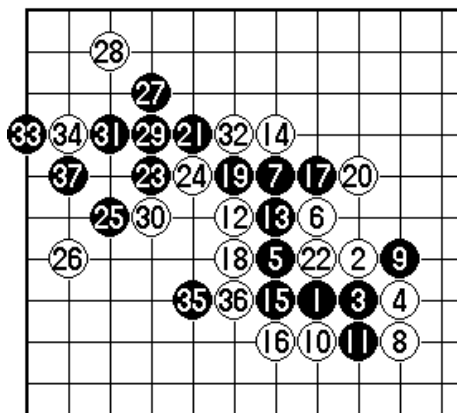


実はここからいきなり追いつける。少し難しいが、黒11から割り込んで行くのが、勝つとしたら唯一の筋。黒17の見せ手がポイントで、黒19の三に対し白20が絶対になるため、黒21から左辺の大海原に展開できる。ここからは説明の要はないだろう。念のため、盤端までの距離を示しておく。



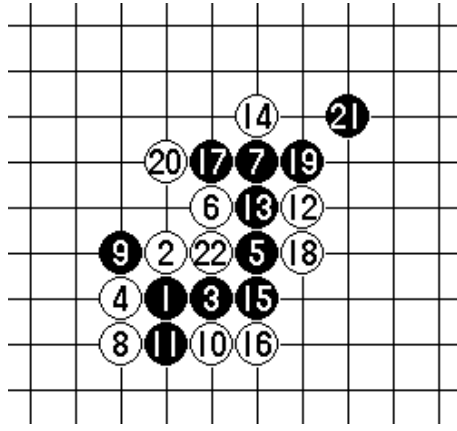
では、今度は残月からスタートしてみよう。白4は見慣れないが、黒5と打たれば、先程の図と同じ形

になる。先程の図と比較してみると、盤端までの距離が違うのがわかるだろう。これだと盤までの近さが災いしてどうしても勝ちが出ない。試しに黒23から引き出しても、白32の四ノビで防がれる。



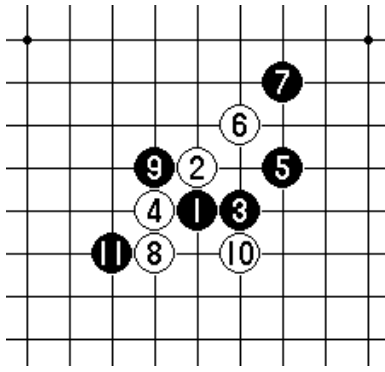
今度は雲月からスタートしてみる。黒5と打てば同じ形になる。同じように進んでみて黒21の位置を比較してみよう。前図より一路左に広いのがわかる。それだとそのまま引き出して今度は勝ちになる。

同じように今度は雨月から進めてみよう。白6までで冒頭の残月と同じになるため、黒21まで勝ちがない。雲月と雨月で差が出るのが面白い。



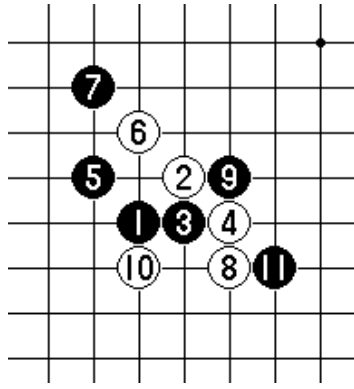
では、残月や雨月からスタートした場合は、どう打てばいいのだろうか？ 考え方として盤端の違いを逆に利用するのが良い。例えば前図では右上に狭かったので、左下に展開する方がベターというのは感覚的にわかるだろう。

根源だったことがわかる。そこで、黒11を打ち換えてみよう。



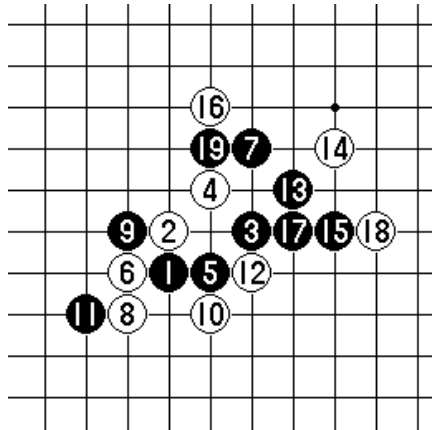
雨月からスタート

黒11と叩くのがこの場合は良さそうだ。ちなみに、雲月からスタートした場合と比較してみると、黒11から盤端までの距離が一路違うのがわかるだろう。



雲月からスタート

次の図は山口九段が上海名人戦で掛けた作戦である。残月からスタートしたため追い勝ちはなく、黒11と叩かれたが、白12が勝負手。黒は19以下引ききれずに白勝ちとなった。



では、どう打てばよかったのだろうか？

黒19からは広い左辺を目標にした方が良さそうだ。黒19、21、23が好手順。ノリ切り勝ちを狙っているので白は後手を引かざるを得ない。悠々黒25と左辺に展開できれば十分であろう。(図は右下)

白16の反対止めなら、狭い右辺でも勝ちが出る。白12は13か28で我慢すべきだが、それでも黒有利には違いない。

